

モーダルシフトに関する事例 (物流総合効率化法の認定事例より)

令和5年8月16日

国土交通省総合政策局物流政策課

紙製品と飲料製品の異業種ラウンド輸送による鉄道モーダルシフト

令和4年8月2日 認定

事業主体

大王製紙(株)、ダイオーロジスティクス(株)、サントリーホールディングス(株)、サントリーロジスティクス(株)

事業内容

31ftコンテナにて、関東～関西への飲料製品の輸送、関西～関東への紙製品の輸送を鉄道輸送に転換するモーダルシフト(ラウンド輸送)を実現し、環境負荷低減と省力化を推進する。

転換前

関西地区飲料製品配送センター
(大阪府)

関西地区紙製品事業者倉庫
(兵庫県)

関東地区飲料製品事業者
(神奈川県)

関東地区紙製品事業者倉庫
(神奈川県)

転換後

関西地区飲料事業者配送センター
(大阪府)

関西地区紙製品事業者倉庫
(兵庫県)

関東地区飲料製品事業者
(神奈川県)

関東地区紙製品事業者倉庫
(神奈川県)

31ftコンテナ
ラウンド輸送

JR貨物安治川口駅

東京貨物ターミナル駅



モーダルシフト600km



モーダルシフト600km

特徴

- ・飲料製品及び紙製品の鉄道輸送へモーダルシフト
- ・荷主・輸送事業者が連携し、31ftコンテナを利用した、異業種ラウンド輸送

効果

CO₂排出削減量: 100.8t-CO₂ (62.1%)
ドライバー運転時間省力化 1,771時間 (73.3%削減)

ブロックトレインを利用した鉄道輸送へのモーダルシフト

実施主体

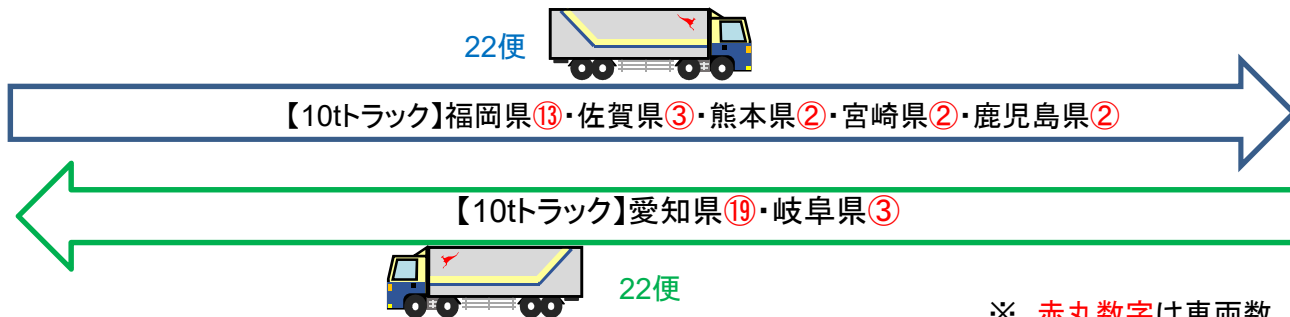
西濃運輸(株)
九州西濃運輸(株)
日本貨物鉄道(株)

事業内容

中部地区～九州地区の特別積合せ運送における幹線輸送について、一部貸し切り列車(混載ブロックトレイン)を利用したモーダルシフトに転換する。

シフト前

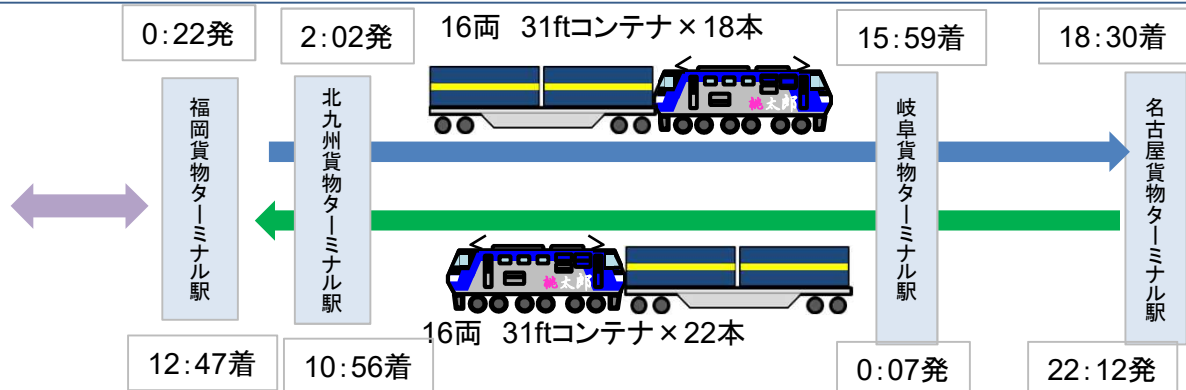
福岡県③
佐賀県②
熊本県①
宮崎県①
鹿児島県②



※ 赤丸数字は車両数 青丸数字は発事業所数

シフト後

福岡県②
佐賀県①
宮崎県②
鹿児島県②



※ 赤丸数字は車両数 青丸数字は発事業所数

愛知県⑪
岐阜県②

特徴

- トラックから31ft鉄道コンテナを利用した鉄道輸送へのモーダルシフト

効果

- CO₂排出削減量 5834.8t-CO₂/年(74.6%削減)
- ドライバー運転時間省力化 100,490時間/年(85.3%削減)

ビールメーカー4社のRORO船モデルシフト

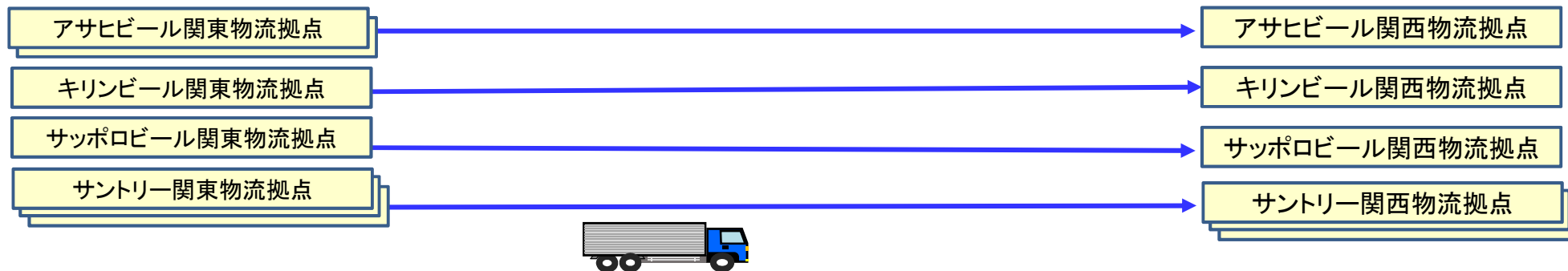
実施主体

澁澤倉庫(株)、大王海運(株)

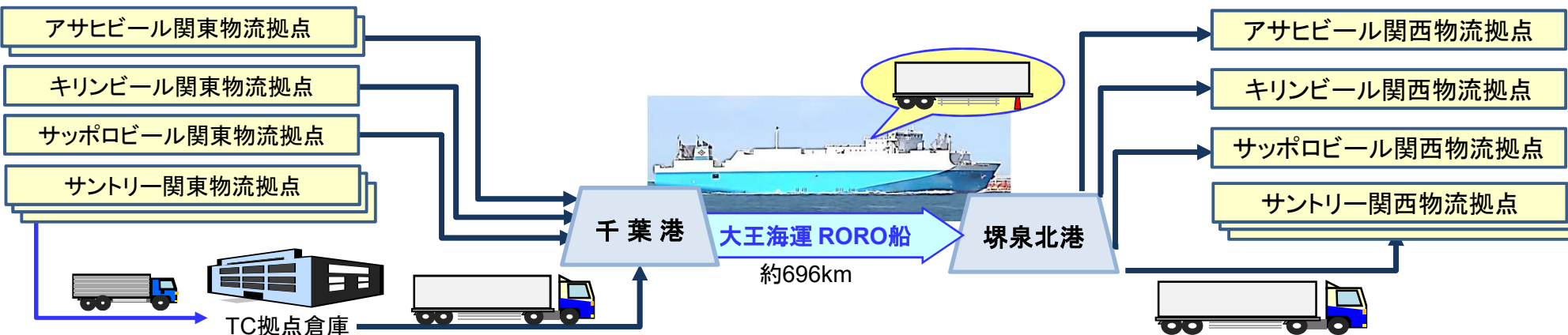
事業内容

ビールメーカー4社が関東⇒関西間を各々陸上輸送していたが、各社とも大型シャーシを使って、RORO船による海上モデルシフトを実施し、効率化を図る。

転換前



転換後



特徴

メーカー4社の工場等から直接大型シャーシで、あるいは集約拠点で大型シャーシに積替え、RORO船を使ったモデルシフトを実施。

効果

- ・CO₂排出削減量: 1,648.7t (59.3%)
- ・ドライバー運転時間省力化: 3,793時間 (77.5%)